

13

豊橋

豊橋市立章南中学校

とよはしりつしょうなんちゅうがっこう もりた ともみ
 ○豊橋市立章南中学校 森田 友実

とよはしりつとうぶちゅうがっこう くろやなぎ くみ
 豊橋市立東部中学校 黒柳 紅美

分科会番号

10

分科会名

家庭科教育

研究テーマ

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造する生徒の育成
 —2年家庭科「人生におけるお金のピンチとチャンスに備えよう（将来を見据えた金銭管理）」の実践を通して—

1 主題設定の理由

『人生100年時代』の到来が予測され、これまでとは異なるライフプランニングが求められる現代において、就職、結婚、出産、住宅購入、教育、老後など、多くのライフイベントは、お金と密接に関わっており、金銭管理の重要性はますます高まっている。社会経済が目まぐるしく変化するなか、将来を見据えた金銭管理について中学生のうちから考えることは、よりよい生活の実現のための価値ある学びとなるだろう。

本実践を始めるにあたり、本校の中学2年生にアンケートを実施したところ、多くの生徒が月に数千円程度のこづかいをもらっており、その用途は友人との交際費や趣味に関するもの、菓子類、日用品など多岐にわたることがわかった。そして、生徒たちの「こづかいの範囲内で工夫してやりくりしている」という発言から、現段階において、収支のバランスをとって金銭管理をする必要性に気づいていることがうかがえた。しかし、今後生徒たちは親元を離れ、食費や住居費などの生活費に加え、さまざまなライフイベントに備える必要がある。本研究を通して、人生におけるお金の収支の変化や予期せぬできごとが家計に与える影響について理解し、金銭管理の方法や特徴について考えることで、自らの未来を工夫し創造できるようになってほしいと考えた。

2 研究の構想

(1) 目ざす生徒の姿

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、将来を見据えた金銭管理を自ら工夫し創造しようとする生徒

(2) 研究の仮説

人生におけるお金の収支の変化や予期せぬできごとが家計に与える影響について学んだり、金銭管理の方法や特徴について考えたりする活動を行えば、よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造する生徒が育つだろう。

(3) 研究の手だて

①ライフサイクルゲームの実施

すごろく形式のライフサイクルゲームを実施し、人生におけるさまざまなできごとを疑似体験する機会を設ける。ゲームでは、就職、結婚、出産、住宅購入、教育、老後などのライフイベントや、災害、けが、病気、詐欺などの予期せぬできごとについてのマスが設けられている。これにより、将来のライフプランニングと金銭管理の結びつきをより現実的に捉えることができると考えた。

②モデル家族のライフイベント表の提示

モデル家族が実際に経験した就職、出産、住宅購入などのライフイベントとその際の収支の変化をまとめた表を提示し、分析させる。これにより、貯蓄や投資の必要性など、金銭管理における具体的な工夫点や意思決定の重要性について気づくことができると考えた。

③かわり合いの場の設定

同じ金銭管理の方法について調べた生徒どうしや異なる方法について調べた生徒どうしでかわり合う場を設定する。これにより、多様な管理方法があることに気づかせることができると考えた。

(4) 研究構想

- ・こづかいの範囲で欲しいものを買っているよ（交際費、趣味、菓子類、日用品など）

大人になったらどのような場面でお金をつかうのかな ①②

- ・結婚や住宅購入など、高い買い物をするようになるのかもね
- ・病気やけが、詐欺など、いざというときのために備えることが大切だね
- ・ライフサイクルゲームに出てきた「投資信託」って何だろう

手だて①人生におけるお金の収支の変化や予期せぬできごとが家計に与える影響について学ぶための手だて

- ・大人になるとたくさんのライフイベントがあるんだね
- ・どのようなライフイベントがあるのか調べたいな

ライフイベントについて調べてみよう ③

- ・就職、結婚、出産、住宅購入、教育、老後など、たくさん意思決定をする場面があるんだね
- ・自分の思い描いた人生を送るためには、お金が必要なんだね
- ・お金がたくさん必要になるみたいだけど、少し余裕があるときもありそうだよ

手だて②金銭管理の必要性について気づくための手だて

お金に余裕があるときはどうしておくとういのか ④⑤⑥

- ・将来お金がかかるから、しっかり貯金して備えたいな
- ・旅行や経験のためにお金をつかえば、人生を豊かにできる
- ・資格の勉強などの自己投資をして、将来に役立てたいな
- ・リスクとリターンをしきみを理解して、金銭投資することでお金が増えるとういこと
- ・お金をつかわないようにすることもつかうことも、将来のためになるんだね
- ・将来のためにお金のつかい方の選択肢を増やすことが重要だと思ったよ

手だて③金銭管理の方法や特徴について考えるための手だて

将来、自分らしく生活していくために、計画的に金銭管理をしていきたいな

(5) 抽出生徒について

生徒Aは、毎月5000円のこづかいを家族から受け取っている。事前に行ったアンケート調査から、その主な用途は、友人との交際費や食費などにつかわれていることがわかった。その他に、ゲームや好きなキャラクターのグッズなどの目標のために貯金していることもわかった。金銭の収支について考えた授業では、「こづかいの範囲内で工夫してやりくりしている」という発言があり、収支のバランスをとって金銭管理をする必要性に気づいていることがうかがえた。一方で、総合的な学習の時間にキャリア学習をした際には、就職、結婚、住宅購入などの将来起こりうるライフイベントや、病気や災害といった予期せぬ支出について具体的な年齢や内容をあげることができず、まだ自分ごととして捉えられていない様子があった。

本実践では、生徒Aがもつ既存の金銭管理の技能を基盤としつつ、長期的な金銭感覚へと視点を広げていく。そうすることで、自らの未来を経済的な側面からも主体的に工夫し、創造する意識が芽生えるとともに、具体的な人生設計をイメージする姿を育てたい。

3 研究の実践と考察

(1) 第1・2時 大人になったらどのような場面でお金をつかうのかな

将来を見据えた長期的な金銭管理への意識の程度を把握するため、本題材の導入として、「大人になったらどのような場面でお金をつかうのかな」と問いかけた。生徒Aから「いざというときに大きな買い物をする」という意見があがった。その具体的な場面を質問すると、「高級なご飯」や「カッコよい車」などがあがった【資料1】。このような姿から、生徒たちが想像する大人のお金のつかい方は、家庭内での経験やメディアから得たイメージに基づく消費や短期的なライフイベントに偏っていることが確認された。住宅購入、教育費、老後資金といった長期的なライフイベントや、予期せぬ支出への備えといった、将来を見据えた金銭管理の視点がまだ具体的にイメージできていないことが明らかになった。

教師：大人になったらどのような場面でお金をつかうのかな

生徒A：いざというときに大きな買い物をする

教師：Aさんの「いざというとき」ってどのようなときなのかな

(近くの生徒どうしが相談をする)

S1：お祝いで高級なご飯を食べるときです

S2：カッコよい車を買うときだと思います

資料1 第1時授業記録

第2時では、大人になってから起こりうる「いざというとき」を想像することができるようになるため、ライフサイクルゲームを実施した【資料2】。生徒はグループに分かれ、さいころの出た目に従って、就職、結婚、出産、住宅購入、病気といったさまざまなライフイベントや予期せぬできごとを疑似体験した。ゲーム開始当初、生徒Aは「結婚でお祝い金が入ったぞ」や「家を買うぞ」と、喜ばしいライフイベントに心が躍っている様子だった。しかし、ゲームが進み、災害による住宅の修繕費や病気による高額な医療費の支払いといったマスに止まると、「この出費はきついな」「貯金が足りないかもしれない」といった具体的な危機意識を伴う発言が増えた。振り返りでは、「災害が起きて家が壊れたり、大きな病気をして入院したりすると、毎月の収入だけではお金が足りないことがわかりました」と、長期的なライフイベントや予期せぬ支出への備えの必要性に視点が向いたことがうかがえる【資料3実線】。また、ゲーム内で予期せぬ支出が重なった生徒Aは、「保険に入っておけばよかったじゃん」と友達に言われたことをきっかけに、「自分が大人になったときは、どのような備えが必要なのか調べたいです」と振り返っており、将来の生活設計として捉え始めていることが感じられた【資料3点線】。このような姿から、次時には、ライフイベントや予期せぬできごとに備えるための金銭管理について調べることにした。



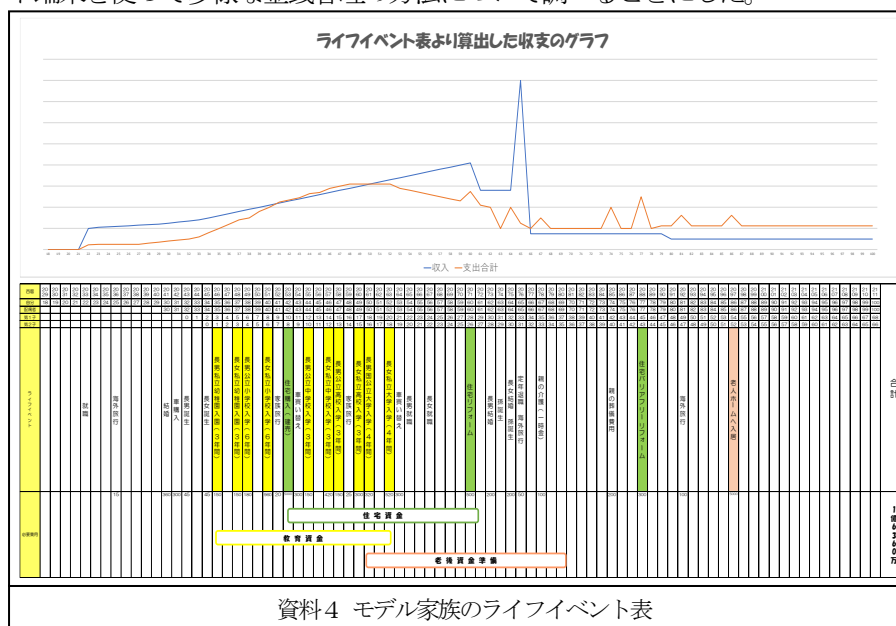
資料2 ライフサイクルゲームをする生徒A

災害が起きて家が壊れたり、大きな病気をして入院したりすると、毎月の収入だけではお金が足りないことがわかりました。友達に「保険に入っておけばよかったじゃん」と言われて、自分が大人になったときは、どのような備えが必要なのか調べたいです。

資料3 生徒Aの第2時の振り返り

(2) 第3時 ライフイベントについて調べてみよう

長期的な備えの必要性を認識した生徒Aに対し、その認識を具体的な金銭管理の考察へ繋げるため、第3時ではモデル家族のライフイベントとその際の収支の変化をまとめた表について、グループごと分析する活動をした【資料4】。生徒たちは、ゲームで疑似体験した「いざというときの支出」が、具体的な数字となって示されたことに強い関心を示していた。生徒Aのグループは、「子どもの大学進学時期」や「住宅ローンと子育てが重なる時期」が支出が厳しくなるピンチな時期であることに気づいた【資料5】。第2時で抽象的に感じていた「お金が足りないかもしれない」という危機意識が、「10年後に、400万円が必要だ」といった具体的な課題へと変化した。生徒Aの振り返りには、予期せぬ支出が重なった時期の貯蓄残高が大幅に減少している点に着目し、「お金に余裕のある若い時期に少しでも将来の備えをするとよい」と記載されていた【資料6】。調べ学習の最後に「もしモデル家族の“自分”が29歳のとき、余剰資金が100万円あったら、あなたはそのお金をどのようにつかいますか」という問いをし、生徒Aは、「貯金80万円、株10万円、その他（自己投資など）10万円」と答えた。学級全体で、振り返りを共有した際には、生徒Aが「貯金以外にも、ライフサイクルゲームで上手くいった株などもやったらよい」と発言した。この発言から、次時ではタブレット端末を使って多様な金銭管理の方法について調べることにした。



教師：モデル家族のライフイベント表をみて、気づいたことはあるかな

生徒A：人生にはお金に余裕のある時期とピンチな時期があるね

S1：子どもの大学進学には400万円もかかるんだ

S2：住宅ローンと子育てが重なる時期は、収支が赤字になっているよ

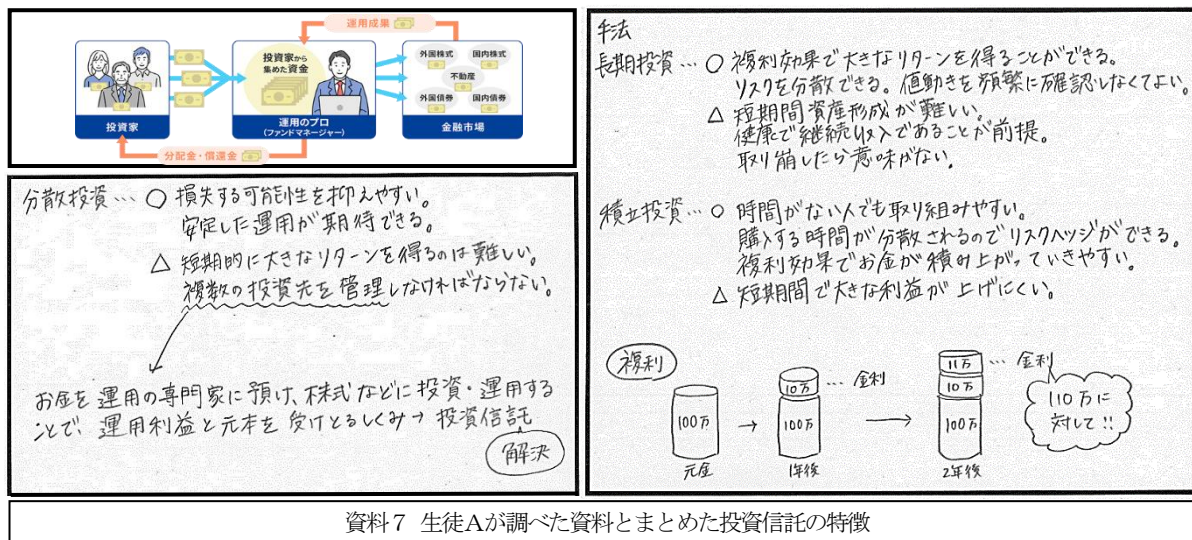
資料5 第3時授業記録

モデル家族のライフイベント表をみると、人生にはお金に余裕のある時期とピンチな時期があることがわかった。住宅ローンと子育てが重なった時期のために、お金に余裕のある若い時期に少しでも将来の備えをしようと思いました。（貯金や株など）

資料6 生徒Aの第3時の振り返り

(3) 第4～6時 お金に余裕があるときはどうしておくといのかな

第4時では、お金に余裕があるときにできる金銭管理の方法として、前時で生徒Aから出た貯金や株などの金銭投資のうち、一人一人が関心の高いものを選んで調べ学習を行った。生徒Aは金銭投資のなかでも投資信託について関心をもった。投資信託は、お金を運用の専門家に預け、株式などに投資・運用することで、運用利益と元本を受け取るしくみであることがわかった。さらに、投資信託で、利益がでる可能性を高めるために、長期投資、積立投資、分散投資のメリットとデメリットについてまとめた【資料7】。



資料7 生徒Aが調べた資料とまとめた投資信託の特徴

そして、第5時では、生徒Aと同じ金銭投資に関心を持ち、調べ学習をしていた生徒とグループをつくり、収集した知識を共有する場を設けた。グループ内で調べた知識を共有し終わると、生徒Aは「金銭投資は貯金とちがってリスクはあるけど、リターンも大きいから、しっかり勉強すれば、将来の備えになる」と振り返りに記した【資料8実線】。また、同じようにグループ内で知識を共有した生徒の中から、「他の方法を調べたグループとも発表し合いたい」という声があがった。生徒Aの「他のグループが調べた方法も知れるので、生活にいかしたい」という振り返りからも、将来を見据えて金銭管理を自ら工夫しようとする姿がうかがえる【資料8点線】。

第5時で高まった「他の方法を調べたグループとも発表し合いたい」という生徒の思いから、第6時では、貯金と金銭投資について、各グループが調べた内容を発表し、質疑応答や意見交換を通じて多様な金銭管理の方法を比較検討する活動を行った。生徒Aは、授業の前半に金銭投資のしくみを説明した。すると、生徒Aの発表を聞いた生徒たちは、「必ずお金が増えるなんてことはないから、将来の備えとしてはリスクが高いんじゃないの」などと感想を述べていた。そこで、生徒Aは分散投資のメリットについて資料を活用しながら説明した【資料9】。「アイスクリーム会社は晴れの日には利益が出て、おでん会社は雪の日には利益が出る。どちらか一方の会社だけに投資をすると損失が出やすいかもしれないが、どちらにも投資すると利益が安定しやすい」という説明に、聞いていた生徒たちはとても関心を寄せていた。また、生徒Aは貯金について調べたグループの説明を聞き、「貯金は元本が保証されるから、緊急時の備えとして安全」「インフレのときは、貯金は目減りする」と発表者たちにコメントした。

自分は、長期・積立・分散投資についてまとめました。
他の金銭投資について調べた人の話をきいて、改めて 金銭投資は貯金とちがって、リスクはあるけど、リターンも大きいから、しっかり勉強すれば、将来の備えになる と思いました。あとは他のグループが調べた方法も知れるので生活に いかしたい。

資料8 生徒Aの第5時の振り返り



資料9 生徒Aが使用した分散投資の資料

rnnei かかわり合いを終え、もう一度「もしモデル家族の“自分”が29歳のとき、余剰資金が100万円あったら、あなたはそのお金をどのようにつかいますか」と発問した。生徒Aは、第3時の時点で「貯金80万円、株10万円、その他（自己投資など）10万円」と考えていたが、かかわり合いの後には「貯金50万円、金銭投資20万円、その他30万円」と考えが変容した。最後に行った生徒Aの振り返りには、「貯金にもデメリットがあってインフレの影響を受けやすく、お金の価値が下がる」「でも、何かあったときのために半分ためておく」金銭投資は「やり方によっては増える可能性が高いし、分散すれば低リスク」と記されていた【資料10】。ここから、情報共有の場を設定したことで、将来を見据えた金銭管理の多様な方法にふれることができ、よりよい生活の実現に向けて行動するための具体的な方法を考えることができたといえる。

資料10 生徒Aの第6時の振り返り	
理由	貯金を50万円にしたのは、貯金にもデメリットがあってインフレの影響を受けやすく、お金の価値が下がってしまっていて、後からせつなくするために、今の状況にあまりなりたくなかったから、でも何かあったときのために半分ためておく。金銭投資を30万円にしたのは、やり方によっては、増える可能性が高いし、分散すれば低リスクだし、いいと思った。

4 研究のまとめ

(1) 手だての検証

①ライフサイクルゲームの実施

第1・2時「大人になったらどのような場面でお金をつかうのかな」では、ライフサイクルゲームを通して、生徒Aは人生には大きな支出や予期せぬできごとが必ず起こり得ることを疑似体験することができた。資料3からわかるように、生徒Aは、「災害がおきて家が壊れたり、大きな病気をして入院したりすると、毎月の収入だけではお金が足りないことがわかりました」と振り返っており、長期的なライフイベントや予期せぬ支出への備えの必要性に視点が向いたことがうかがえる。また、ゲーム内で予期せぬ支出が重なった生徒Aは、「保険に入っておけばよかったじゃん」と友達に言われたことをきっかけに、「自分が大人になったときは、どのような備えが必要なのか調べたいです」と振り返っており、次のステップである具体的な金銭管理の方法を学ぶ動機づけとなったと評価できる。以上のことから、手だて①は有効であったといえる。

②モデル家族のライフイベント表の提示

第3時「ライフイベントについて調べてみよう」では、モデル家族のライフイベント表の提示をし、収支の変化を分析する活動を行った【資料4】。生徒たちは、ライフサイクルゲームで疑似体験した「いざというときの支出」が、具体的な数字となり、「10年後に、400万円が必要だ」などといった現実的な課題に気づく機会となった【資料5】。生徒Aは、「子どもの大学進学時期」や「住宅ローンと子育てが重なる時期」を支出が厳しくなるピンチな時期として考察し、振り返りには「お金に余裕のある若い時期に少しでも将来の備えをするとよい」と記した【資料6】。第2時で抽象的に感じていた「お金が足りないかもしれない」という危機意識が、予期せぬ支出が重なった時期の貯蓄残高が大幅に減少している点に着目することで、将来を見据えた金銭管理への意識に変容していったと考えられる。以上のことから、手だて②は有効であったといえる。

③かかわり合いの場の設定

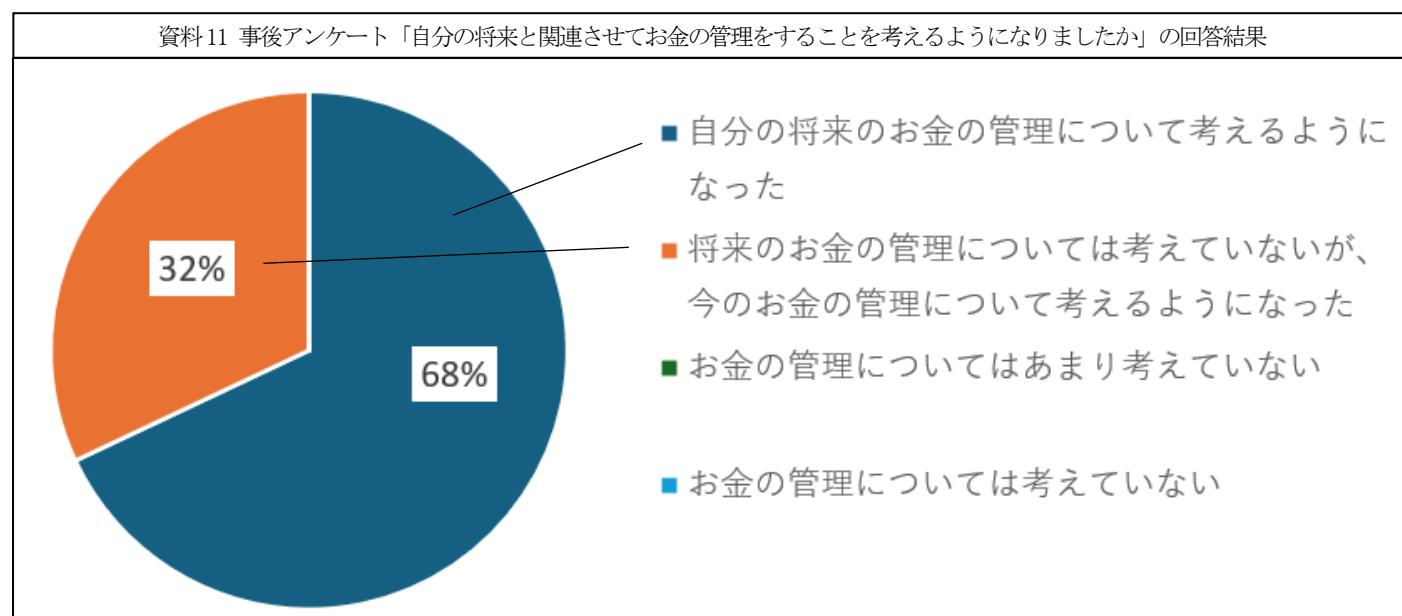
第5時では、同じ金銭管理の方法について調べた生徒や異なる方法について調べた生徒どうしでかかわり合う場を設定した。グループ内で調べた知識を共有し終えると、生徒Aは「金銭投資は貯金と違ってリスクはあるけど、リターンも大きいから、しっかり勉強すれば、将来の備えになる」と振り返りに記した【資料8実線】。

第6時では、貯金と金銭投資について、異なる方法を調べた生徒どうしで質疑応答や意見交換をし、多様な金銭管理の方法を比較検討する活動を行った。生徒Aは、金銭投資について資料を活用しながら根拠をもって説明したり、貯金について今までになかった視点を見つけてメリットやデメリットに気づいたりする様子があった。

本実践の最後に行った生徒Aの振り返り【資料10】からもわかるように、かかわり合いの場を設定したことで、将来を見据えた金銭管理の多様な方法にふれることができ、よりよい生活の実現に向けて行動するための具体的な方法を考えることができたといえる。

（２）研究の成果と今後の課題

生徒たちは、人生におけるお金の収支の変化や予期せぬできごとが家計に与える影響について学んだり、金銭管理の方法や特徴について考えたりする活動を行ってきた。本実践後に行ったアンケート調査では、「自分の将来と関連させてお金の管理をすることを考えるようになりましたか」という質問に対し、「自分の将来のお金の管理について考えるようになった」生徒が68%、「将来のお金の管理については考えていないが、今のお金の管理について考えるようになった」生徒が32%、「お金の管理についてはあまり考えていない」生徒と「お金の管理については考えていない」生徒はともに0%であり、生徒全員が金銭管理に対する意識を高めたことが明確になった【資料11】。



今回の実践では、資産形成やリスクヘッジに焦点が当たったため、金銭的なリターンに直結しない社会貢献や倫理的な消費といった視点からのお金のつかい道について十分な考察を行うことができなかった。今後は、持続可能な社会の構築という観点から、「何のためにお金をつかうか」という価値観や社会性を深く問う活動を取り入れ、金銭管理と社会との繋がりを意識させる学習を展開することが課題となる。